

2016 年度 小委員会活動成果報告

(2016 年 12 月 15 日作成)

小委員会名	地盤基礎系振動小委員会	主 査 名：護 雅史 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (振動運営委員会)	委員長名：緑川光正 主 査 名：宮本裕司
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2017 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>構造を含む耐震安全性向上と耐震設計合理化・精緻化に向け、有効地震動や建物地震時応答の適切な評価方法の構築を目的とする。</p> <p>初年度：過去の地震観測記録・被害の分析による相互作用効果の影響検討と動的相互作用効果を簡潔に設計に取込む方法の整理</p> <p>2 年度：一般会員向けのワークショップ、あるいはシンポジウムの開催。非線形 SSI に関わるパラメータと建物応答・建物被害の関係等を概観できるチャート作成に向けた解析的、及び実験的検討を開始。</p> <p>3 年度：非線形相互作用と建物の地震時応答や被害との関係について検討を進めつつ、1～3 年の検討結果を反映した出版物の執筆開始。</p> <p>4 年度：基礎の 2 次設計を念頭にした非線形相互作用の耐震設計への導入に向けての方法検討。出版物の刊行とこれを用いた講習会を実施。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有	
	主査：護 雅史 (名古屋大学) 幹事：新井 洋 (建築研究所)、藤森健史 (大林組) 委員：飯場正紀 (北海道大学)、柏 尚稔 (国土技術政策総合研究所)、川島 学 (三井住友建設)、木村 匠 (清水建設)、酒向裕司 (小堀鐸二研究所)、柴田景太 (大成建設)、高橋広人 (名城大学)、田村修次 (東京工業大学)、永野正行 (東京理科大学)、山本健史 (戸田建設)、吉澤睦博 (竹中工務店)、吉田洋之 (東電設計)	
設置 WG (WG 名：目的)	動的相互作用効果編集WG：刊行物の編集等補助作業。	
2016 年度予算	270,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.ajj.or.jp/kouzou/s45/JibanKisoHP.html

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会 承認企画	1. 第44回地盤震動シンポジウム「2016年熊本地震で何が起きたか」(地盤震動小委員会と共同) 参加者数 258名 『同名資料』 2. ワークショップ「地盤と建物の動的相互作用の現象解明と耐震設計 —SSI研究の現状と2016年熊本地震の検討事例」 参加者数 138名 『同名資料』
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 出版物の刊行に向けて、編集を行うとともに、脱稿には至らなかったが、意見徴収を含めたワークショップを開催 (2月15日)。また、編集補助のため、WG を 5 回 (予定を含む) 開催し、進捗確認、調整を実施。 2. 2016年熊本地震に関する研究を実施するとともに、地盤震動小委員会と共催で第44回地盤震動シンポジウムを開催。
委員会活動の問題点 ・課題	1. 当小委員会の特徴を活かした新しい研究テーマの発掘と研究活動の活性化。 2. 他の小委員会との役割分担の明確化と連携強化。